

## 令和2年度 全学共通科目に関する調査（学生対象）

**調査概要** 全学共通科目のうち、「社会人基礎力入門」、「初年次ゼミⅠ」、「初年次ゼミ」、「自己と社会・地域論」、「初年次ゼミⅡ」の5科目について、学生を対象とした授業後のアンケート調査を実施した。調査では、全15回の授業内容について4段階の自己評価で達成度を測るとともに、講義前後の変化について2択で測った。

**調査時期** 前期調査：2020年7月（15回目授業）

後期調査：2021年1月（15回目授業）

**調査対象** 大学1年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミⅠ」「自己と社会・地域論」「初年次ゼミⅡ」

短期大学部1年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミ」「自己と社会・地域論

※ 留学生は「社会人基礎力入門」「自己と社会・地域論」を2年次に受講するため、対象は短期大学部2年生となる。

**調査内容** 科目ごとにシラバスの到達目標に基づく15項目の設問を設定し、「できていない」「あまりできていない」、「できている」、「とてもよくできている」の4段階で回答を求めた。また教育前後の変化を把握するため、前述の自己評価が「講義前から変わらない」、「講義前から変わった」のどちらかで選択回答を求めた。

### 社会人基礎力入門

①基礎学習力や社会人マナーについて（11項目）

②情報リテラシーについて（4項目）

### 初年次ゼミⅠ

①大学生活の心構えについて（4項目）

②情報収集について（3項目）

③レポート小論文などの文章技法について（8項目）

### 初年次ゼミ

①大学生活の心構えについて（6項目）

②情報収集について（2項目）

③レポート小論文などの文章技法について（3項目）

④プレゼンテーションの基礎技法について（4項目）

### 自己と社会・地域論

①自己について（7項目）

②地域社会について（8項目）

## 初年次ゼミ II

- ①プレゼンテーションの基礎技法について（11 項目）
- ②ディベートについて（2 項目）
- ③ディスカッションについて（2 項目）

## 調査結果

各科目のアンケート回答者数は下記の通りであった。

科目名	大学	短期大学部	全体
社会人基礎力入門	514	206	720
初年次ゼミ I	526	-	526
初年次ゼミ	-	206	206
自己と社会・地域論	530	152	682
初年次ゼミ II	528	-	528

## 結果の概要

### 社会人基礎力入門

前半の「基礎学習力や社会人マナー」の分野、後半の「情報リテラシー」の分野ともに肯定的回答（「できている」、「どちらかといえばできている」）の割合が高かった。前半の「基礎学習力や社会人マナー」の中で〈ダイバーシティ&インクルージョンの理解〉と〈接遇の理解〉に関しては否定的回答（「どちらかといえばできていない」、「できていない」）が約 2 割を占めていた。接遇に関してはこれまでも他の項目より修得度が低い状況がみられており、教授内容の改善が必要と考えられる。

### 初年次ゼミ I

全体的に肯定的な回答が多かったが、〈事前事後学習などの学習習慣がついている〉、〈クリティカル・シンキングを活用して他者の主張を批評できる〉、〈図書館を利用してレポートの為に情報収集ができる〉、〈執筆のためのアウトラインを作ることができる〉は否定的回答の割合が他の項目よりも高かった。短期間での修得が難しい項目であることに加え、図書館での情報収集に関しては新型コロナウイルスの影響で図書館での活動時間が十分に取れなかったクラスもあったと推測される。

### 初年次ゼミ

「初年次ゼミ I」の結果にも見られたように〈図書館を利用してレポートのための情報収集ができる〉は他の項目と比べて否定的回答の割合が高かった。図書の探し方については講義内で扱うものの、実践に十分な時間がとれていないことが示唆される。

## 自己と社会・地域論

昨年度の調査結果と同様に前半の「自己」に関する項目では肯定的回答の割合が高かった。後半の「地域社会」に関する項目は前半に比べると否定的回答の割合は若干低く、特に〈NPOが地域社会で果たす役割について説明できる〉で否定的回答が2割を超えていた。NPO法人の具体的な事例については外部講師を招いての合同講義を実施しているものの、制度の概要や社会的役割についての一般的な講義が必要かもしれない。

## 初年次ゼミ II

肯定的回答が約8割以上を占めており、全体的に修得度は高かった。〈論理的・具体的なプレゼンテーションができる〉、〈相手を説得することを意識したプレゼンテーションができる〉、〈ディベートのテーマについて論理的に考え、意見を組み立てることができる〉の項目は否定的回答が他の項目よりもやや高く、修得を実感するには実践を重ねる必要があると考えられる。

## 結果の概要

### 社会人基礎力入門

前半の「基礎学習力や社会人マナー」の分野、後半の「情報リテラシー」の分野ともに肯定的回答（「できている」、「どちらかといえばできている」）の割合が高かった。前半の「基礎学習力や社会人マナー」の中で〈ダイバーシティ&インクルージョンの理解〉と〈接遇の理解〉に関しては否定的回答（「どちらかといえばできていない」、「できていない」）が約2割を占めていた。接遇に関してはこれまでも他の項目より修得度が低い状況がみられており、教授内容の改善が必要と考えられる。

社会人基礎力入門の修得度の自己評価と授業前後の変化

	学修内容の修得度			講義前後の変化		
	できている	どちらかといえばできている	どちらかといえばできていない	できていない	講義前から変わらない	講義前より力がついた
1. 社会人に必要な基礎学力である「読む・書く・聞く」力を身につけている	252	429	37	2	123	597
2. ダイバーシティ&インクルージョンについて理解している	167	386	143	24	173	547
3. 社会人としての身だしなみや必要な礼儀・マナーを身につけている	365	329	21	5	113	607
4. 敬語の役割を理解している	331	350	35	4	110	610
5. 正しい敬語を使うことができる	189	449	78	4	113	607
6. 接遇とは何か説明できる	171	399	134	16	146	574
7. 社会が求める気配りができる人とはどのような人か説明できる	228	434	49	9	113	607
8. 社会人として信頼につながる言動を理解している	295	385	37	3	121	599
9. 前に踏み出す力(アクション)について理解している	226	423	62	9	149	571
10. 考え抜く力(シンキング)について理解している	229	428	56	7	129	591
11. チームで働く力(チームワーク)について理解している	330	361	25	4	135	585
12. 情報社会の現状について理解している	273	396	46	5	109	611
13. 情報社会における倫理について理解している	210	413	88	9	136	584
14. コミュニケーションと情報デザインについて説明することができる	214	425	68	13	106	614
15. AI時代に求められる能力について理解することができる	260	401	42	17	112	608

図.「社会人基礎力入門」の学修内容の修得度

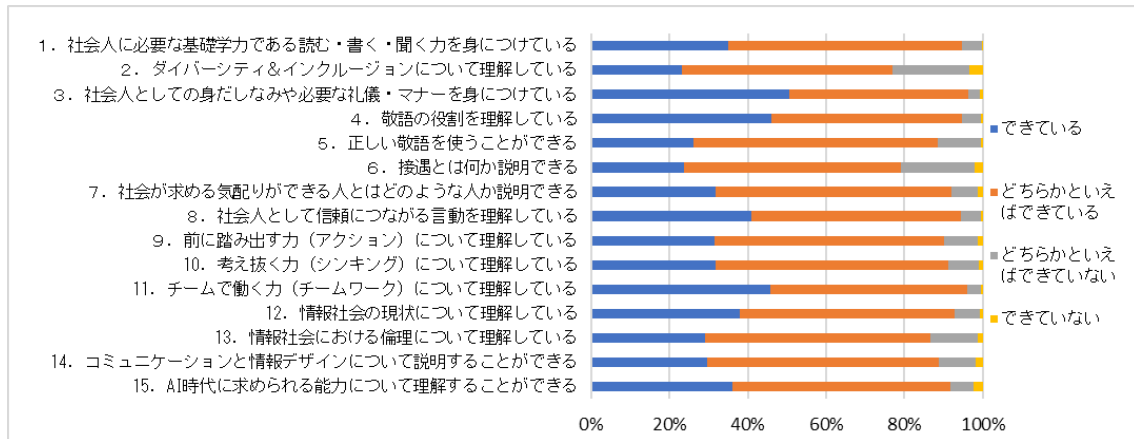
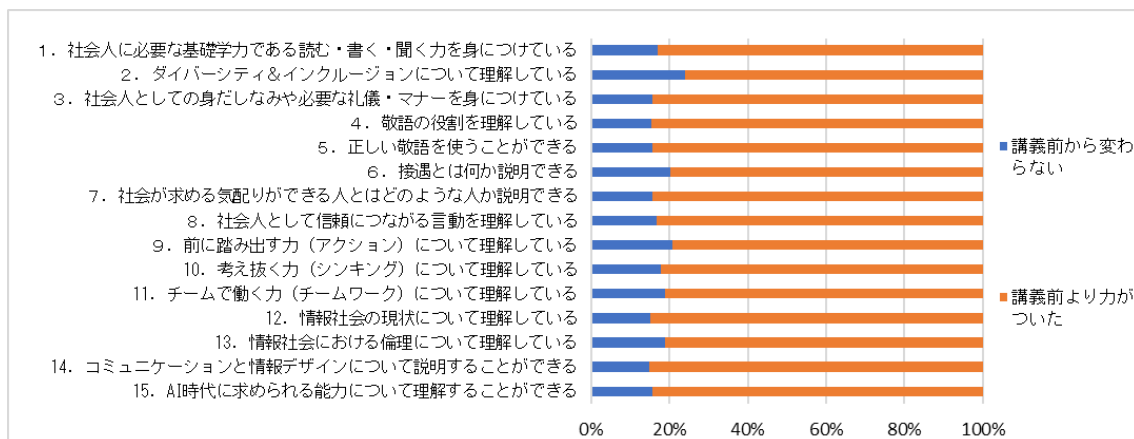


図.「社会人基礎力入門」の学修内容の講義前後の変化



## 初年次ゼミ I

全体的に肯定的な回答が多かったが、〈事前事後学習などの学習習慣がついている〉、〈クリティカル・シンキングを活用して他者の主張を批評できる〉、〈図書館を利用してレポートの為の情報収集ができる〉、〈執筆のためのアウトラインを作ることができる〉は否定的回答の割合が他の項目よりも高かった。短期間での修得が難しい項目であることに加え、図書館での情報収集に関しては新型コロナウイルスの影響で図書館での活動時間が十分に取れなかったクラスもあったと推測される。

初年次ゼミIの修得度の自己評価と授業前後の変化

	学修内容の修得度				講義前後の変化	
	できている	どちらかといえはできている	どちらかといえはできていない	できていない	講義前から変わらない	講義前より力がついた
1. 目標に向けて具体的に行動している	142	325	54	5	120	406
2. 大学生活が充実するよう心がけている	218	273	29	6	170	356
3. 事前事後学習などの学習習慣がついている	76	269	159	22	251	275
4. 自分自身で工夫して時間管理ができる	124	282	113	7	244	282
5. レポートと作文の違いを説明できる	166	299	55	6	76	450
6. 基本的な構成に沿ったレポートを書くことができる	106	346	69	5	77	449
7. 文章の主張を正しくつかみ、的確に要約できる	81	327	107	11	137	389
8. クリティカル・シンキングを活用して、他者の主張を批評できる	70	308	134	14	165	361
9. 論理的な文章を書くことができる	60	295	158	13	137	389
10. 課題のテーマに関して下調べし、論点を絞ることができる	109	339	72	6	92	434
11. インターネットを利用してレポートのための情報収集ができる	238	268	17	3	95	431
12. 図書館を利用してレポートのための情報収集ができる	169	210	100	47	162	364
13. 入手した文献を取捨選択し、整理・保存ができる	151	303	66	6	113	413
14. 執筆のためのアウトラインを作ることができる	84	290	127	25	156	370
15. 情報収集で得た文献を適切に引用し、レポートを書くことができる	140	322	56	8	76	450

図. 「初年次ゼミ I」の学修内容の修得度

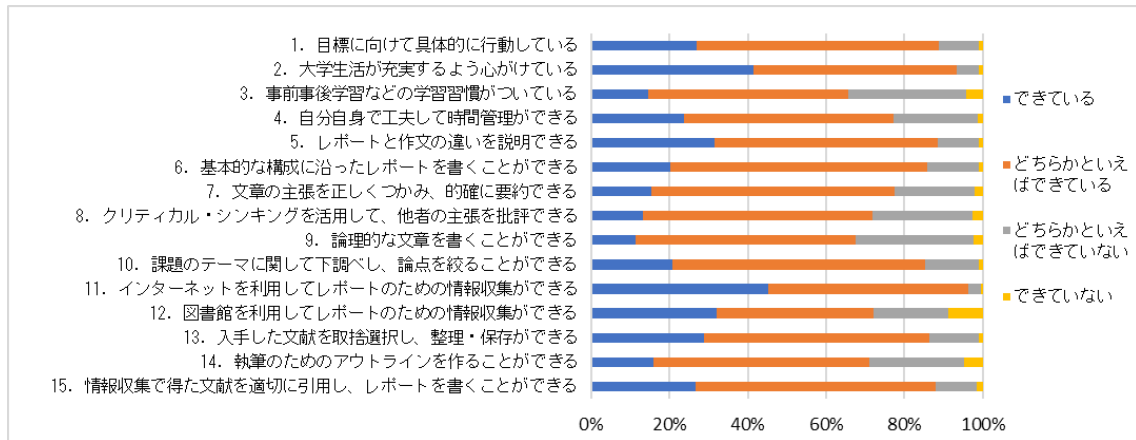
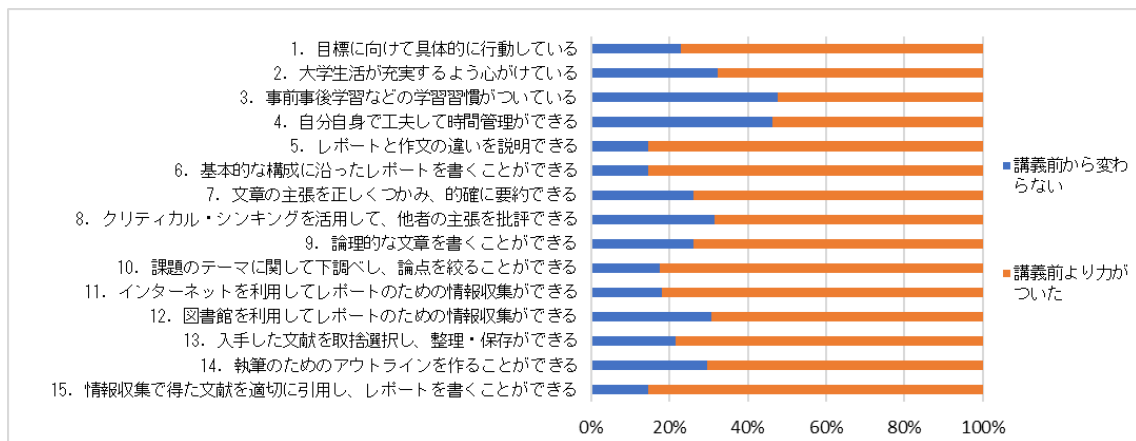


図. 「初年次ゼミ I」の学修内容の講義前後の変化



## 初年次ゼミ

「初年次ゼミ I」の結果にも見られたように〈図書館を利用してレポートのための情報収集ができる〉は他の項目と比べて否定的回答の割合が高かった。図書の探し方については講義内で扱うものの、実践に十分な時間がとれていないことが示唆される。

初年次ゼミの修得度の自己評価と授業前後の変化

	学修内容の修得度			講義前後の変化		
	どちらか できている	どちらか いえばでき ている	どちらか いえばでき ていない	できていな い	講義前から 変わらない	講義前より 力がついた
1. 目標に向けて具体的に行動している	80	109	15	2	41	165
2. 大学生活が充実するよう心がけている	104	87	12	3	54	152
3. 事前事後学習などの学習習慣がついている	50	110	36	10	68	138
4. 自分自身で工夫して時間管理ができる	73	93	38	2	85	121
5. シラバスや履修要項に使用される用語を理解し、説明できる	43	131	27	5	57	149
6. 講義中は要点をつかんでノートを取ることができる	66	100	32	8	67	139
7. 図書館を利用してレポートのための情報収集ができる	57	69	44	36	79	127
8. インターネットを利用してレポートのための情報収集ができる	111	79	12	4	40	166
9. レポートと作文の違いを説明できる	62	110	25	9	38	168
10. 基本的な構成に沿ったレポートを書くことができる	48	124	29	5	38	168
11. 情報収集で得た文献を適切に引用しレポートを書くことができる	60	115	22	9	47	159
12. プレゼンテーションのための効果的な資料(スライド, ハンドアウトなど)を作成できる	80	94	25	7	45	161
13. 全体の構成を工夫してわかりやすく説明することができる	49	111	40	6	51	155
14. 話し方、視線、姿勢などに注意したプレゼンテーションができる	49	111	40	6	50	156
15. メンバーと協力してグループ活動に取り組むことができる	104	85	12	5	53	153



図.「初年次ゼミ」の学修内容の修得度

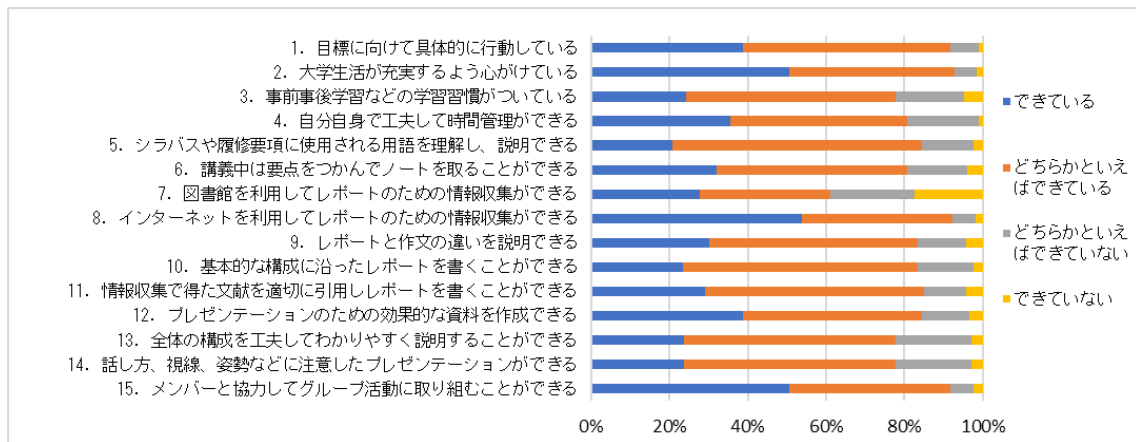
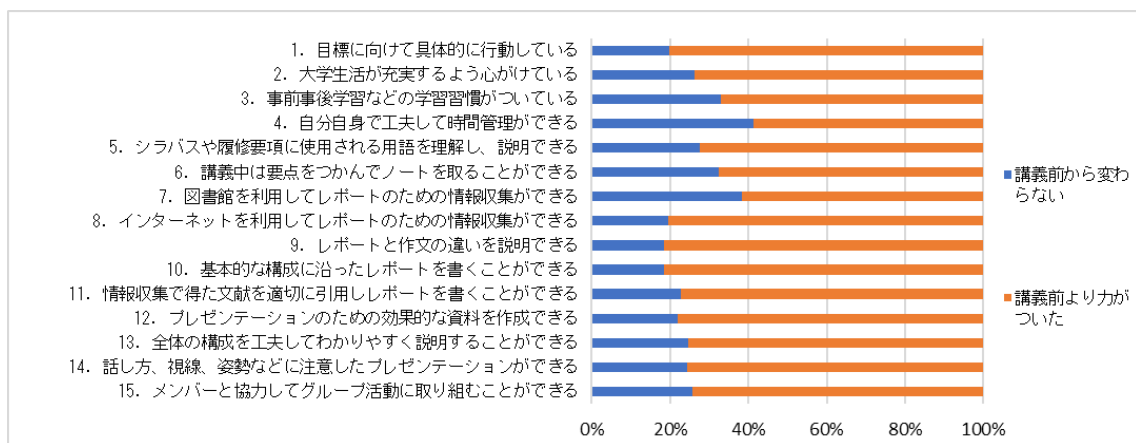


図.「初年次ゼミ」の学修内容の講義前後の変化



## 自己と社会・地域論

昨年度の調査結果と同様に前半の「自己」に関する項目では肯定的回答の割合が高かった。後半の「地域社会」に関する項目は前半に比べると否定的回答の割合は若干低く、特に〈NPOが地域社会で果たす役割について説明できる〉で否定的回答が2割を超えていた。NPO法人の具体的な事例については外部講師を招いての合同講義を実施しているものの、制度の概要や社会的役割についての一般的な講義が必要かもしれない。

自己と社会・地域論の修得度の自己評価と授業前後の変化

	学修内容の修得度				講義前後の変化	
	できている	どちらかといえはできている	どちらかといえはできていない	できていない	講義前から変わらない	講義前より力がついた
1. 自己理解と他者理解の必要性がわかる	302	351	23	6	539	142
2. 生い立ち分析から自分について理解できる	257	377	42	6	518	163
3. 自己受容の大切さがわかる	296	337	43	6	494	187
4. よい人間関係を築くためにアサーション(自己主張)の大切さがわかる	296	342	38	6	511	171
5. よい人間関係を築くために傾聴の大切さがわかる	342	316	21	3	531	151
6. ストレスのコントロールの大切さとやり方がわかる	269	356	49	8	468	213
7. 将来の方向性が明確になる	227	338	97	20	436	246
8. 徳島県の地場産業の特徴を説明できる	174	377	116	15	539	142
9. 徳島県の特徴ある企業を複数挙げるができる	206	389	72	15	559	123
10. 地域社会における企業の役割について説明できる	191	377	105	9	535	147
11. 地場産業や地域の企業について調べ、その特色をまとめることができる	178	390	98	16	524	158
12. 個人や団体、企業が、地域の中で連携する重要性を説明できる	194	382	93	13	530	152
13. 個人や団体、企業が実際に進めている具体的な地域活動の例を挙げる	179	372	115	16	519	163
14. NPOが地域社会で果たす役割について説明できる	147	357	148	30	470	212
15. 自分ができる地域貢献について意見を出すことができる	191	392	78	21	517	165

図. 「自己と社会・地域論」の学修内容の修得度

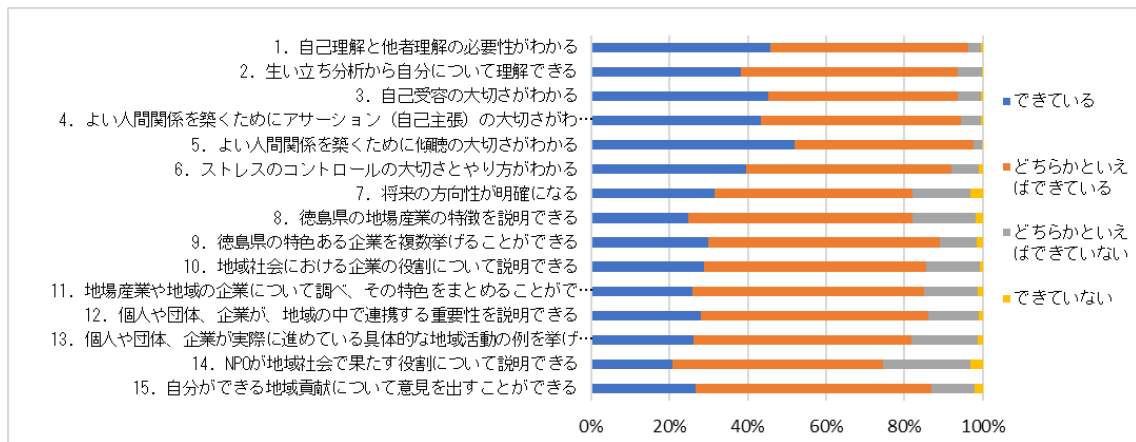
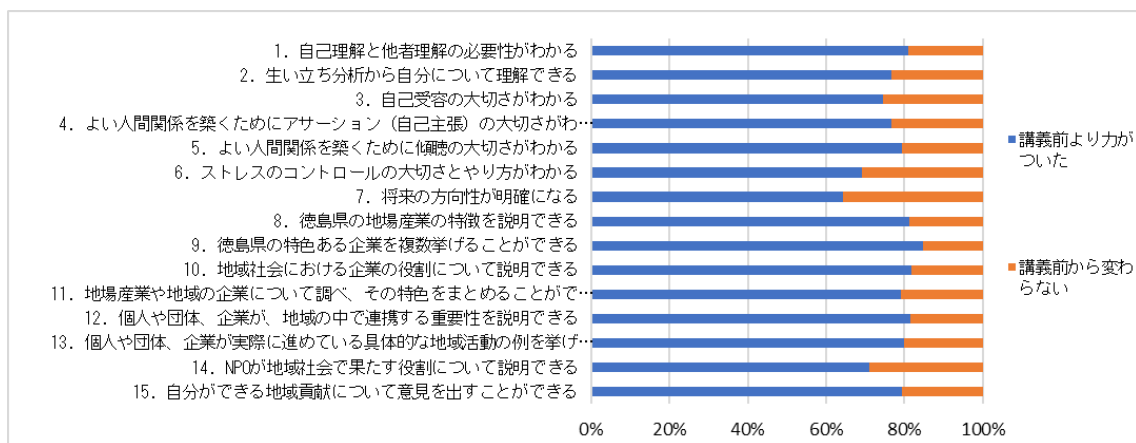


図. 「自己と社会・地域論」の学修内容の講義前後の変化



## 初年次ゼミ II

肯定的回答が約 8 割以上を占めており、全体的に修得度は高かった。〈論理的・具体的なプレゼンテーションができる〉、〈相手を説得することを意識したプレゼンテーションができる〉、〈ディバートのテーマについて論理的に考え、意見を組み立てることができる〉の項目は否定的回答が他の項目よりもやや高く、修得を実感するには実践を重ねる必要があると考えられる。

初年次ゼミIIの修得度の自己評価と授業前後の変化

	学修内容の修得度			講義前後の変化		
	どちらかとい えている	どちらかとい えばでき ている	できていな い	講義前から 変わらない	講義前より 力がついた	
1. 自分を印象づけるコミュニケーションができる	146	300	79	3	409	119
2. 非言語的要素を意識したコミュニケーションができる	143	316	64	5	382	146
3. プレゼンテーションの基本的なスキルを説明できる	135	335	52	6	455	73
4. プレゼンテーションの準備のために自分の思考を整理することができる	181	316	30	1	469	59
5. プレゼンテーションの骨組みを理解し、構成できる	157	330	40	1	457	71
6. プレゼンテーションのために自分の意見を確立することができる	151	331	42	4	455	73
7. プレゼンテーションのために自分の主張の正当性を裏付けることができる	123	321	82	2	435	93
8. 文章とプレゼンテーションの類似性を理解している	130	332	56	10	417	111
9. プレゼンテーションの目的に応じたわかりやすい資料を作成できる	161	302	60	5	438	90
10. 論理的・具体的なプレゼンテーションができる	108	316	98	6	435	93
11. 相手を説得することを意識したプレゼンテーションができる	117	314	90	7	445	83
12. ディスカッションの基本的なルールを説明できる	126	332	58	12	434	94
13. グループの中で共通理解が得られるようにディスカッションすることができる	120	334	65	9	432	96
14. ディバートの基本的なルールを説明できる	122	321	77	8	426	102
15. ディバートのテーマについて論理的に考え、意見を組み立てることができる	114	299	108	7	403	125

図. 「初年次ゼミ II」の学修内容の修得度

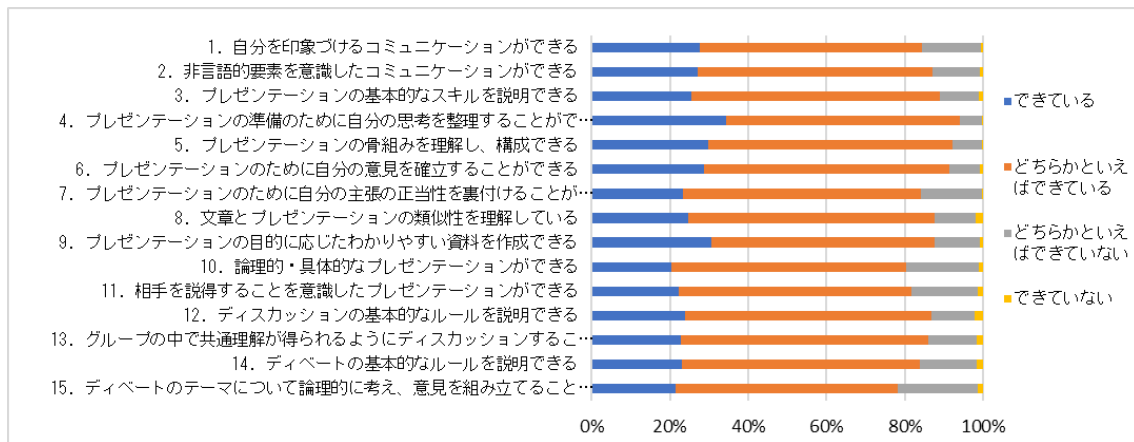


図. 「初年次ゼミ II」の学修内容の講義前後の変化

